■児童・生徒の学力の状況

○今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から国語では話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこととの中心を捉えること平均正答率が低いことが分かった。算数はどの分類の平均正答率も全国を上回っていた。
 ○意欲的に学習に取り組む児童は多いが、応用して考えたり判断したりすることや、自分の思いや考えを文章にして的確に表現することが苦手な児童もいる。
 ○各学年で基礎的・基本的な学習能力が身に付いていない児童が1割程度いる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○児童一人ひとりの考えを全体で共有していく時間が十分に確保できずに個人の発表で展開されることもあり、互いに高め合い、深い学びへとつなげる指導方法を工夫する必要がある。
 ○読み解く力を支える基礎的読解力をどのように身に付けさせていくか、また6つの観点を授業のどの場面でもどのように位置付けることにより、効果的な読み解く力の育成へとつながるのかを検討していく。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○児童一人ひとりが、何を学ぶかを意識し、何を学んだかを自覚できるようにする。
 ○課題の発見と解決に向け主体的・対話的・協働的に学ぶ学習を多く取り入れ、児童に思考力、判断力、表現力を身に付けさせる。
 ○「板橋区授業スタンダード」を徹底し、児童が学習の見通しをもって学び方を身に付け、自力解決ができるようにする。また、毎時のめあてに児童のアウトプット(書く・話す・伝え合う等)を位置付ける。更に、自分の意見や考えを文章化する際に「80字以内にまとめて書く」等の制限を設けて文章力の育成を図る。
 ○「hyper-QU」や「MIM」「RST」の活用を図り、全体指導の中で個別指導ができる手だてを用意する。
 ○「読み解く力」を支える基礎的読解力の育成を全カリキュラムの中で意図的・計画的に行う。
 ○「習熟度別算数少数指導」や「東京ベータックドリル」を活用し、モジュール学習「板五タイム」や放課後補習教室「SU教室」で学力を高めていく。
 ○ミライシードの「ドリルパーク」を活用し、基礎学力の育成と定着を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「課題設定→解決方法の設定→自力解決→集団検討→課題解決→学習の振り返り」という学習の流れを定着させる。 ○本時の教科のねらいを明確にした具体的なめあてを提示し、児童がめあてに対して振り返りを行う時間を毎時間必ず設定する。	○「読み解く力の育成」をテーマに日々の授業における3つの対話を通して児童の読解力や思考力・表現力を伸ばすように授業革新を図り、更に毎時間のめあてを吟味して指導力向上に努める。また、「授業革新ハンドブックforever」を作成し、授業づくりに活用する。	○各教科等の学びを総合的な学習の時間につなげられるようにし、探究的な学習の充実を図る。全ての教育活動において子どもたちが自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、まとめ、表現する活動を意図的・計画的に行い、自己学習力を育成する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
・学びのエリア小中学校で、分科会における指導案検討会を行い、読み解く力の育成の研修を図る。 ・小学生と中学生による交流会を設定することで、発表活動を相互に見学して評価・助言を行い、より良い発表の仕方を身に付けさせる。	SDGsやSTEAM教育の視点を踏まえ、総合的な学習の時間を核としたカリキュラム・マネジメントの取組を進めていく。総合的な学習の時間の年間計画では、各学年の小単元ごとの学習活動をSDGsの17の目標と関連付けると共に、単元配列表の中で各教科等で育成する資質・能力と相互に関連付け、探究的な学習の過程を重視した取組を行う。	○全学級でICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示したり児童の考えの共有化を図ったりする。 ○Chromebookを学習の中にも有効に位置付け、発達段階に応じた弾力的な運用を行う。 ○他者との対話において、考えを深める伝え合いとするために「考えを交流する必然性がある課題の設定」「ハンドサインの活用」「話型の提示」「思考ツールの活用」「目的に応じた問い返し」等の具体的な手だてを講じる。